

2 . 助成研究の調査結果と分析

次に助成を受けた研究者に研究がその後どの様になっているか、又助成金の意義、当財団の役割等についてアンケート調査した。

2 . 1 アンケート調査

2 . 1 . 1 調査の実施概要

前回報告で調査した平成 1～8 年度に引続いて、平成 9～14 年度の助成テーマ 64 件に対して平成 15 年 6 月から 10 月にかけてアンケート調査を実施した。

調査の実施概要を表 2.1.1.1 に示す。64%の回答率となった。

平成 9 年度の研究助成制度については前回報告で調査しており、平成 14 年度の助成テーマについては研究終了直後であり、いずれも対象外とした。

また、この他に調査年度以外の助成対象者 2 名から助成制度に関し意見を戴いたので含めて処理した。従って実質的な回答者は 43 名である。

アンケート用紙を本報告書の巻末資料に示す。助成テーマのその後の状況及び当財団の研究助成制度について記入する様に構成した。

		調査年度						合計
		H9	H10	H11	H12	H13	H14	
アンケート 回収数	助成件数	13	11	10	10	10	10	64
	助成テーマ	5	6	7	8	8	-	41
	研究助成制度	-					7	

表 2.1.1.1 調査の実施概要

2 . 1 . 2 回答者の構成と回答された助成テーマの分類

回答者の構成を表 2.1.2.1、図 2.1.2.1 に示す。役職は申請書応募時のものである。

回答された助成テーマの分類・分布を表 2.1.2.2、図 2.1.2.2 に示す。C 生体の健闘が目立つ。

教授	助教授	講師+助手+研究員他	合計
20	11	12	43

表 2.1.2.1 回答者の構成

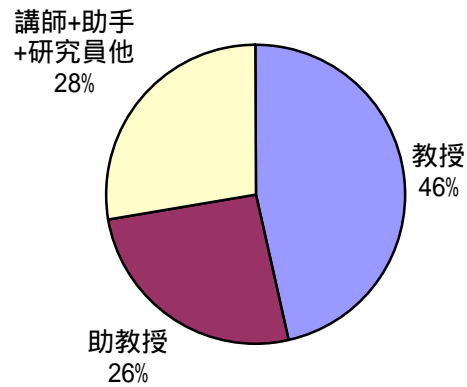


図 2.1.2.1 回答者の構成比率

A 音声	B 騒音	C 生体	D 音楽	E 音響	F 超音波	G その他	合計
4	4	11	6	8	6	4	43

表 2.1.2.2 回答された助成テーマの分類

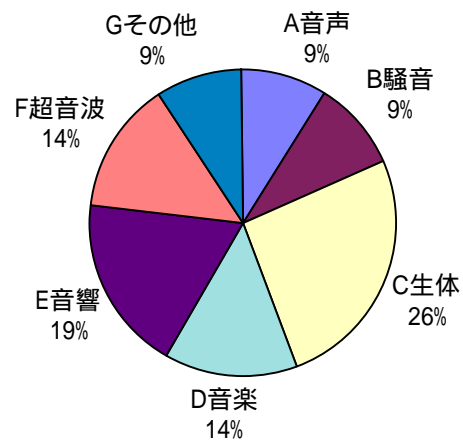


図 2.1.2.2 回答された助成テーマの分布